

継続事業評価シート

評価確定日 平成31年4月3日

平成30年度(2年目)

Table with 3 rows and 10 columns containing project details like '事業コード', '事業名', '戦略コード', '戦略名', etc.

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

地域内事業者及び会員の減少に加え、商工会職員設置数の減も伴い、同一事業の共同実施や、地域資源の活用などテーマ別の事業連携、小規模商工会と近隣商工会の組織連携など、地域を超えた商工会間の広域連携による事業展開についての検討と実施が必要となった。

2. 事業のねらい

商工会の限られた経営資源を有効に活用し、スケールメリットを活かした効果的・効率的な事業展開を図るとともに個社支援に集中できる環境を整えるため、広域連携を推進し、事業者に対し質の高いサービスを提供する。

3. これまでの評価結果

Table with 7 columns: 過年度, H29, -, H30, H31, H32

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

【取組評価】

Table with 7 columns: 取組コード, 取組, 実績, 必要性, 有効性, 効率性, 総合評価. Contains rows 22, 23, 24.

評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

Table with 17 columns for tracking performance metrics across years H29 to H33, including 指標名, 年度, 目標, 実績, 達成率, 達成度.

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 取組評価の必要性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合) a

〈評価の理由〉

ガイドラインの提示により、広域連携事業への取組意識が形成されており、商工会が自主的に近隣商工会との連携事業を実施し、商工会議所や他県の商工会との連携事例も増えているため。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 取組評価の有効性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合) b

〈事業の目標は達成されているかどうか〉

- ・自主的に取り組んだ連携事業はあるものの、ガイドラインの活用状況が把握できていない。
・商工会未設置地区への巡回等は実施していない。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 取組評価の効率性が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定2つ以上の場合) a

〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉

情報収集した県内商工会の実施例の中で、コスト縮減に結びつけられる事業の連携提案を行った。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(見直しが必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

既存事業の連携については有効かつ効率的な実施につなげ、概ね順調である。

3. 課題

- ・ガイドラインの提示により、取組意識が形成されたもののセミナー等への参画呼びかけレベルとなっており、ガイドラインに沿った推進体制の構築が必要である。
・商工会未設置地区への支援のありかたについての検討が必要である。

4. 今後の対応方針(改善点)

商工会の抱える課題の共有と解決、小規模商工会の組織運営に関する広域連携のあり方について検討が必要であり、実施に向けた協議の場として広域連携連絡会議等を提案していく。